

イシガレイ (いしだ)

生態的特徴等

【生態】

日本から樺太、台湾まで広く分布し、主な生息域は水深 150 m 以浅とされる。本県では水深 70 m 以浅の砂泥底に多く生息している。産卵期は冬から初春にかけて、成長はメスの方が早く 3 歳で 30 cm に達し、産卵親魚となる(図 1)。オスの成熟は 2 歳、25 cm である。

【漁法と盛漁期】

延縄のほか、固定式刺網(建網)や底曳網で漁獲されている。盛漁期は延縄で冬季、建網で夏季である。

【利用】

旬は夏とされ、活魚が洗いや刺身として重宝される。その他、煮つけや焼き物などに利用される。

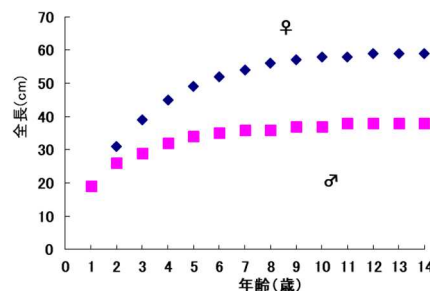


図 1 イシガレイの成長

資源量は低位、新たな加入は少ない

(漁獲量) H10 年に 88 トンまで増加した後、減少に転じたものの H16 年以降再び増加し、H20 年のピーク時には 156 トンとなった。その後は減少傾向を示し、R6 年は 0.7 トンとなった(図 2)。なお、H24~27 年にかけては福島第一原発事故に伴う出荷制限期間があり、一部海域で漁獲が行われなかった。

(加入量) 近年、まとまった稚魚の加入は見られていない。

(水準と動向) 資源水準は、過去の固定式刺網(建網)漁獲量から計算した CPUE (kg/隻, 日) の推移から「低位」、動向は直近 5 年間の CPUE の傾向から「減少」とした(図 3)。

水 準



動 向

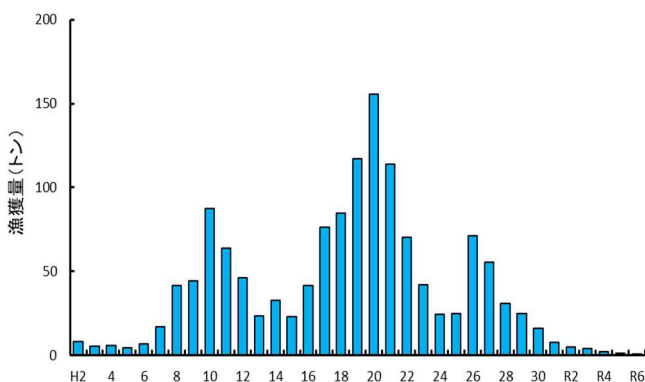


図 2 イシガレイの漁獲量(属地、水試システム)

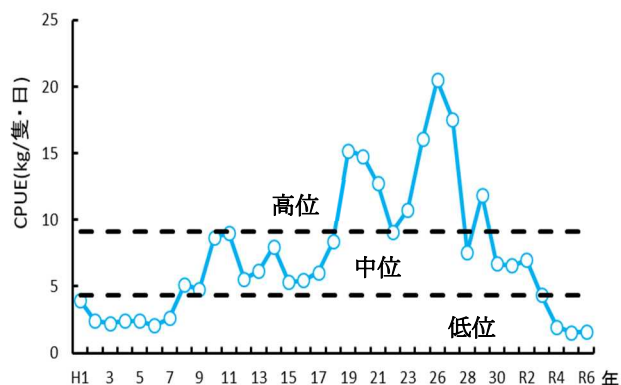


図 3 イシガレイの CPUE(固定式刺網(建網))

【全国の漁獲動向】

主産地は北海道から常磐であり、古くは東京湾の主要なカレイ類であったが、近年は減少している。